

近代の山鹿の  
偉人たち  
シリーズ

018

軍神から日豪親善のかけはしに(一九一七〜一九四二)

# 松尾敬宇

昭和十七年、太平洋戦争で特殊潜航艇の艇長としてオーストラリアの軍港シドニー湾を攻撃した。潜航艇は、シドニー湾の複雑な水路と嚴重な警戒を突破して湾内深く潜入し、連合国海軍の猛攻に屈せず勇敢に戦ったが、目的を果たせず自決した。オーストラリア海軍は特殊潜航艇乗組員の勇気をたたえるため、最高の榮譽として海軍葬を行い、遺骨も日本に返還された。日本では戦争中に軍神として賞賛された。戦後の昭和四十三年、敬宇の母まつ枝は丁重な弔いへの感謝のためオーストラリアを訪問し、そのふるまいは日豪の国民に深い感銘を与えた。松尾艇は現在もオーストラリアに展示され、平和の大切さを示す両国親善のかけはしとなっている。

## 少年期

松尾敬宇は大正六年（一九一七）七月二十一日、熊本県鹿本郡三玉村（現在の山鹿市三玉）で父鶴彦、母まつ枝の次男として生まれました。教職にあった父は、「宇宙を敬い、神を信仰する」との願いを込めて敬宇と名前をつけました。

多感で利発、負けず嫌いな少年に成長した敬宇は三玉小学校を卒業後、昭和五年（一九三〇）、熊本県立鹿本中学校（現在の鹿本高等学校）に入学しました。当時は軍事訓練が盛んな時代で、全校生徒による菊池神社（菊池市）参拝の際は、級長の敬宇が先頭に立って校旗を持ち行進していました。

そのころの青少年の多くが、卒業後の進路として軍人を志望していました。敬宇も海軍兵学校を受験し、難関を突破して見事に合格したのです。



小学三年生の敬宇と当時の三玉小学校



右：鹿本中学校の敬宇は柔道部に所属した。怪我をしても、柔道の練習を休まなかったというエピソードが残る。

下右：鹿本中学校の卒業式（伝統の校旗決別式）。壇上で校旗を掲げるのが敬宇。  
下左：海軍兵学校卒業記念の家族写真（右から母まつ枝、敬宇、父鶴彦、兄自彊）。



## 江田島 海軍兵学校

昭和十年、敬宇は広島県江田島の海軍兵学校に六十六期として入学し、厳しい訓練で海軍士官を目指す日々を送りました。昭和十二年には日中戦争が始まりますが、その後戦争が長期化し、国家総動員法が成立するなど戦時体制が強化される時代でした。昭和十三年九月の海軍兵学校卒業と同時に、敬宇は海軍少尉候補生に任ぜられます。



## 特殊潜航艇と特別攻撃隊

特殊潜航艇は潜水艦の甲板に載せて輸送し、敵艦船を魚雷で攻撃する兵器です。艦船が少なく兵力の劣る日本海軍が、強大な軍艦をもつ欧米と互角に戦うための奇襲兵器として開発されました。昭和十五年、特殊潜航艇は正式に採用され「甲標的」と命名。敬宇は翌年潜航艇の第二期乗組員に選ばれ、瀬戸内海で操縦訓練にあたりました。

このころ、石油獲得のため東南アジアに進駐した日本に対してアメリカが反発、対日石油輸出を禁止したことから、日米関係は悪化する一方でした。日本はアメリカの兵力を探るため、太平洋艦隊根拠地のハワイ・オアフ島にある真珠湾を偵察します。

敬宇はハワイ偵察のため、昭和十六年十月、アメリカへ向かう日本郵船の「龍田丸」に偽名を用いて運転士生徒として乗り込みました。龍田丸のオアフ島停泊は一日間だけでしたが、敬宇は真珠湾の水路や防備などを詳しく偵察して十一月に帰港しました。

太平洋戦争（大東亜戦争）開戦となった昭和十六年十二月八日の真珠湾攻撃の成功は、日本の航空母艦から飛び立った多数の飛行機による成果だとされています。これに対して、特殊潜航艇は参加した五隻のうち四隻が攻撃のため沈没して乗組員九人が戦死し、一人が捕虜となりましたが、大本営発表※では事実と異なり大きな成果を上げたとされました。戦死した潜航艇の乗組員九人は、後に「九軍神」とたたえられました。

※大本営発表：太平洋戦争で、日本の軍事最高統帥機関の大本営（陸軍と海軍）が行った公式報道。多くは日本軍の戦果を誇張し、敗北等は発表されなかった。

## 最後の別れ

第一次特別攻撃隊に参加した特殊潜航艇が真珠湾で成果を上げることができなかったため、第二次攻撃が計画されました。攻撃の対象は、イギリス海軍のインド洋拠点基地であるアフリカ東岸のマダガスカル島（甲先遣支隊）及び、アメリカなどの連合国艦隊が停泊しているオーストラリアの軍港シドニー湾（東方先遣支隊）とされました。敬宇は東方先遣支隊の潜航艇艇長に選ばれました。

攻撃隊の出発前、敬宇は広島で家族と面会しています。この時父親の鶴彦から、敬宇の頼んだ伝来の短刀（菊池千本槍※1）が、姉の佐伯ふじゑからは千人針※2が贈られました。敬宇は母親のまつ枝と同じ布団で眠りました。これが敬宇と家族との最後の別れとなりました。敬宇たち攻撃隊は、はるか八千キロかなたのシドニー湾を目指して、昭和十七年四月に日本の基地を密かに出発しました。

※1：菊池千本槍は槍の祖形。南北朝時代、南朝方の菊池武重が竹の先に短刀を結び付けた武器を考案し、数に勝る北朝の足利直義軍を敗走させたことから、国のため信義を貫く菊池魂の象徴とされた。



※2：千人針は千人の女性が布に赤糸を刺して縫い玉を作り、武運と無事を祈って出征する兵士に贈ったもの。ふじゑの贈った千人針（上）は、長くオーストラリアのキャンベラにある戦争記念館に展示されていたが、母まつ枝の答礼訪蒙の際、特別に返還された。現在は菊池神社の菊池歴史館に展示されている。

## 第二次特別攻撃隊

日本から潜水艦で西太平洋トラック諸島を経由してシドニー湾沖に到着した六人の乗組員は身なりを整え、昭和十七年五月三十一日の日没後、特殊潜航艇に乗り込みました。敬宇は母の帯で作った袋に千本槍を入れ、都竹正雄二曹と共に出撃しました。満月の夜でした。

リアス式海岸で複雑な地形をもつ軍港シドニー湾は、嚴重に警備されていました。湾の入り口には磁気で艦船の通過を調べる監視装置がありましたが、特殊潜航艇はこの監視をすり抜けました。しかし、最初に侵入した中馬艇は防潜網に引っかかり身動きがとれなくなつたところをオーストラリア海軍の巡視艇に見えられて自爆、沈没します。

次に湾内深く侵入した伴艇は、アメリカの重巡洋艦シカゴに向け魚雷を発射します。魚雷はシカゴの船首をかすめて岸壁で爆発し、横付けされていた宿泊船クッタバルを沈没させます。この攻撃で、クッタバルに宿泊していた水兵ら十九人が死亡しました。伴艇は搜索の目を逃れてシドニー湾から脱出しますが、日本海軍の回収予定地点には現れず、そのまま行方不明※になりました。

最後に侵入した松尾艇も巡視艇に見えられ、翌朝まで激しい爆雷攻撃を受けます。攻撃で魚雷発射装置が故障した松尾艇は反撃できず、敬宇たちは艇内で拳銃自決をとげ、攻撃は失敗に終わりました。

※伴艇は平成十八年(二〇〇六)、シドニー北方三十キロの海底でダイバーによって偶然発見された。オーストラリア政府によって歴史的沈没船に指定され、周辺海域は保護されている。この発見をきっかけに、日豪協同慰霊祭が開催された。

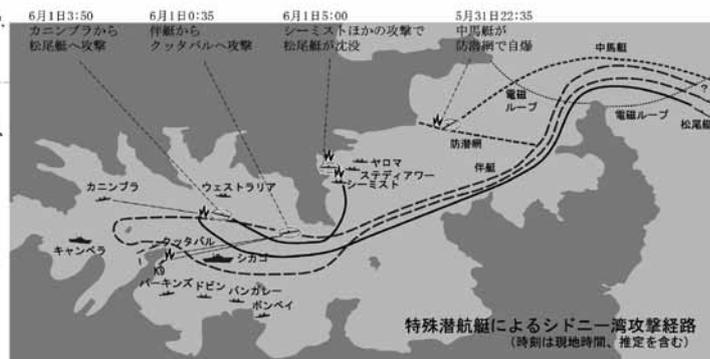


伊21潜(旗艦)水上偵察機を積載  
千代田(特潜母艦)  
ほかに伊29潜など潜水艦5隻

- ・松尾敬宇中尉※1、都竹正雄二曹
- ・八巻梯次中尉、松本静一曹※2
- ・中馬兼四中尉※1、大森猛一曹
- ・伴勝久中尉、芦辺守一曹

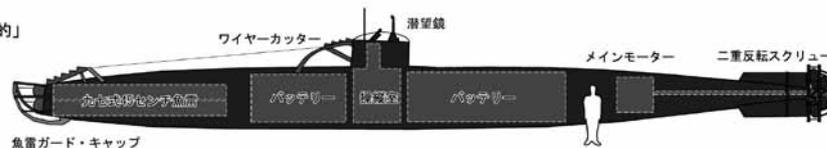
### 第二次特別攻撃隊(東方先遣支隊)の編成と乗組員

- ※1…松尾、中馬中尉は作戦中に大尉へ昇進。戦死後二階級特進。
- ※2…八巻、松本はトラック諸島付近の事故で攻撃には不参加。



### 特殊潜航艇「甲標的」

全長:23.9m  
水中速力:24ノット  
(時速約44km)  
乗員:2名



図はDavid Jenkins, HITTING HOME, Random House Australia, 2002などから

## オーストラリア海軍葬と遺骨の帰国

特殊潜航艇による攻撃の直後、オーストラリア海軍は松尾艇と中馬艇を海中から引き揚げ、艇内から収容した四人の乗組員の遺体を海軍葬で正式に弔いました。この時オーストラリアでは、敵国軍人に対する海軍葬について、非難の声がありました。オーストラリアの都市は日本軍による空襲を受け、大きな被害を受けていたからです。

これに対して、シドニーの海軍司令官グールド少将は「勇氣は、特定の国の所有物でも伝統でもない。（日本の）海軍軍人の勇氣は、誰によっても認められ、かつ一様に推賞されるべきものだ」とラジオでオーストラリア全土に向け放送しています。

潜航艇の乗組員の遺骨は、オーストラリアからの交換船で日本に届けられました。海軍合同葬の後、敬宇の母校・三玉国民学校でも盛大な村葬が営まれました。海軍大臣や県知事などの弔辞五十二通が朗読され、二階級特進で中佐に昇進した敬宇の勇氣をたたえました。



上…横浜港に到着した敬宇たちの遺骨は海洋少年団（手前）など大勢の出迎えを受けた。下…三玉村葬のようす。

シドニー湾攻撃に参加した乗組員たちは、真珠湾を攻撃した第一次特別攻撃隊の隊員たちと同様、軍神として美化され、戦意高揚のためさかんに宣伝されました。松尾家のほか、松尾艇に同乗した都竹正雄の生家（岐阜県高山市）にも、「軍神の生家」の標

木が立てられ、小学生を含む多くの弔問客が墓参りに訪れるようになりました。戦況が日本の不利に傾く中、軍神松尾中佐を題材にした紙芝居や伝記、映画※1も作られました。鳥瞰図絵師として有名な吉田初三郎※2も取材のため松尾家を訪れ、菊池神社や松尾中佐墓地などを描いた見事な鳥瞰図『菊池史蹟図』を作成し、松尾家に寄贈しています。

しかし、敬宇の母まつ枝は、軍神としてではなく、愛する息子を亡くした親としての気持ちで短歌にして残しています。

君がたの 散れと育てし 花なれど

嵐のあとの 庭ざびしけれ （敬宇の一周忌に際して）

※1…『菊池千本槍 噫！シドニー特別攻撃隊』大映製作、昭和十九年公開。

※2…吉田初三郎（よしだはつさぶろう 一八八四～一九五五）画家。大正・昭和初期の観光草創期から戦後まで、入念な現地調査をもとに独特の視点と技法で国内外の鳥瞰図を多数作成した。戦中は熊本県芦北町に疎開していた。菊池神社菊池歴史館で初三郎の作品『菊池史蹟図』を見ることが出来る。



上…山鹿市の生家を訪問した大映社長の菊池寛（中央）と敬宇の両親。生家の周辺では映画『菊池千本槍』ロケも行われた。下…松尾家で吉田初三郎と『菊池史蹟図』。終戦直前の撮影。

## 戦後

昭和二〇年八月、日本は連合国に無条件降伏します。敗戦とともにそれまでの価値観は大きく変わり、「軍神の生家」に立ち寄る人もなくなりました。GHQ（連合国最高司令官総司令部）の目を恐れ、軍神墓参りの記帳の名前を消す人もいました。松尾家にとって、息をひそめるように暮らす日々でした。

その後日本が高度経済成長をとげる中、昭和四〇年にオース



トラリア戦争記念館※のマックグレース館長夫妻が山鹿を訪れます。敬宇の千人針が記念館で保管・展示されていたことが縁となつての熊本訪問でした。館長は「敬宇さんの勇気は全国民が尊敬しています」とたたえ、まつ枝に訪蒙を呼びかけたのに対し、まつ枝は戦争中の海軍葬のお礼を言いました。中佐の墓参りをした館長夫妻は、松尾家の庭でまつ枝と一緒に記念の梅を植えました。



※オーストラリア戦争記念館：世界各地で戦死したオーストラリア人を追悼するための国立機関で、資料収集や調査研究をしている。松尾艇と中馬艇は接合後、完全に修復され、一隻の潜航艇として館内に展示されている。上は以前の屋外展示されていた特殊潜航艇のようす。

## 松本唯一と松尾刀自訪豪答礼後援会

マックグレース館長の来訪をきっかけに、戦争中にもかかわらず敵国の潜航艇乗組員を海軍葬で弔ったオーストラリアの好意に応えるため、敬宇の母まつ枝のオーストラリア訪問を実現させようと、熊本大学名誉教授の松本唯一※を中心に「松尾刀自訪豪後援会」（刀自とは母親のこと）が結成されたのが、昭和四二年暮れのことでした。

松本唯一と松尾家との関わりは、昭和三九年に地質調査のためニュージーランドとオーストラリアを訪問した松本が、キャンベラの戦争記念館で特殊潜航艇や敬宇の遺品の千人針を見学したことに始まります。松本はまつ枝に、息子の潜航艇を見せたいと考えたのです。

昭和四三年正月、新聞で訪豪計画が報道されると、大きな反響を呼びました。各地から募金が届き、その金額は目標をはるかに上回る約四百万円に達しました。同年四月二七日、東京国際空港にはまつ枝と付き添いのふじゑ（敬宇の姉で千人針の贈り主）、松本の三人を見送る人が集まりました。現在のように海外旅行



が一般的な時代ではなく、しかもまつ枝は八十三歳の高齢です。人々は一行為の無事を祈るのでした。

※松本唯一（まつもと ただいち 一八九二〜一九八四）火山学者、地質学者。熊本大学初代理学部長。阿蘇など九州の火山構造を説明。写真はオーストラリアに到着した一行。左から松本、まつ枝、ふじゑ。

## シドニー湾海上慰霊祭

オーストラリア海軍はシドニー湾での海上慰霊祭のために、ランチ（小型船）を用意してくれました。ランチが特殊潜航艇の沈没地点、テラー湾で停止すると、まつ枝は水兵たちにささえられて大きく揺れる船に立ち、海面に向かって山鹿の庭で咲いた花を投げ、菊池神社からいただいたきたお酒を注ぎ、和歌を書いた色紙を投げ入れました。

南海（みんなみ）の 勇士の霊に捧げむと

心をこめん ふるさとの花

その後、一行はキャンベラで海軍大臣、ゴードン首相を訪問し、戦争記念館の屋外に展示されていた特殊潜航艇を見学しました。

我が子の乗っていた潜航艇の前に、まつ枝の目から涙がこぼれました。特別の配慮として、多くの人々が見守るなか、敬宇の千人針が記念館館長からまつ枝に返還されました。

オーストラリアは世界有数の資源国として、産出した石炭や鉄鉱石などを日本に輸出し、日本から自動車などの製品を輸入する、お互いに重要な貿易相手でした。しかし、戦争当時の日本



軍による六十回以上の空襲などを記憶するオーストラリア国民も多く、日本に反対する感情も残っていました。そのような中、はるばる来訪した高齢のまつ枝の堂々とした、しかもけなげなふるまいは、連日新聞の一面などで報道され、オーストラリア中の高い関心を集めたのでした。

## 交流のきずな

五月十二日、一行は長い訪問の旅を終え、無事熊本に着きました。この訪問は、日本国内でも新聞やテレビ・ラジオなどで大きく報じられたことから、松尾家を訪れる人も再び多くなりました。昭和五十年にはまつ枝の孫の千鶴（当時鹿本高校二年生）が、ロータリークラブの交換留学生としてオーストラリア東部のクーマ市に留学しました。これをきっかけに、鹿本町（現在の山鹿市）とクーマ市は姉妹都市締結を宣言し、現在でも交流を続けています。山鹿市の国際交流事業でクーマ市を訪問する中学生は、キャンベラの戦争記念館を見学します。敬宇とまつ枝の築いた交流のきずなは、見事な友好の架け橋としてつながっているのです。山鹿市の生家から少し離れた久原にある敬宇の墓には、熊本県日豪協会の建てた掲揚台で日本とオーストラリアの二枚の国旗がたなびいています。

※敬宇の遺品は、国内では菊池神社（菊池市）菊池歴史館や靖国神社（東京都千代田区）遊就館などに保管展示されている。また、熊本県立装飾古墳館（山鹿市鹿央町）では、敬宇とまつ枝を紹介したオリジナルアニメーション「平和への誓約」を見ることが出来る。

上…シドニー湾での海上慰霊祭。右からふじ系、花を投げるまつ枝、松本。下…戦争記念館で館長から敬宇の千人針を受け取るまつ枝。

# 年表 History

大正六年 (一九一七)	鹿本郡三玉村(現在の山鹿市三玉)で生まれる。
大正十四年 (一九二五)	三玉小学校入学。
昭和五年 (一九三〇)	熊本県立鹿本中学校(現在の県立鹿本高校)入学。
昭和十年 (一九三五)	鹿中卒業。海軍兵学校(広島県江田島市)入学。
昭和十三年 (一九三八)	海軍兵学校卒業。少尉候補生として遠洋航海へ。
昭和十六年 (一九四一)	特殊潜航艇第二期講習、操縦訓練。交換船龍田丸で真珠湾を偵察。十二月、真珠湾攻撃、大東亜戦争(太平洋戦争)開戦。特殊潜航艇による第一次特別攻撃も戦果なし。
昭和十七年 (一九四二)	五月三十一日、第二次特別攻撃隊によるシドニー湾攻撃。六月一日、伴艇の魚雷で宿泊船クツタバルが沈没。松尾・都竹は拳銃で自決。享年二四歳。六月九日、特殊潜航艇乗組員の豪海軍葬。遺骨の返還。
昭和十八年 (一九四三)	二階級昇進(大尉から中佐へ)。広島県呉で特殊潜航艇乗組員の海軍合同葬、三玉村三玉国民学校で敬宇の村葬。軍神生家訪問学童使節の訪問。
昭和十九年 (一九四四)	伝記『潔浄記』(山口白陽作)刊行、序文は徳富蘇峰。菊池寛来訪、映画『菊池千本槍』公開。紙芝居『純忠山櫻』製作。
昭和二〇年 (一九四五)	吉田初三郎、『菊池史蹟図』贈呈。敗戦。
昭和三五五年 (一九六〇)	母まつ枝、『あゝ八月十五日 第二集』出版記念会で熊本大学の松本唯一と初めて対面。
昭和四〇年 (一九六五)	豪戦争記念館館長マックグレース夫妻来日、まつ枝と面会。
昭和四二二年 (一九六七)	二五回忌法要。松尾刀自訪豪答礼後援会が結成。
昭和四三年 (一九六八)	母まつ枝、姉佐伯ふじゑ、松本唯一が訪豪。
昭和四四年 (一九六九)	田尻健二『軍神松尾中佐とその母 都竹兵曹長』刊行。菊池神社に西村虚空『軍神胸像』。
昭和五〇年 (一九七五)	鹿本町とクーマ市が姉妹都市締結を宣言。
昭和五四年 (一九七九)	松尾家玄関に松口月城『軍神松尾中佐詩碑』設置。詩碑建立募金の余剰金で写真集『軍神松尾中佐とその母』刊行。
昭和五五年 (一九八〇)	まつ枝死去、享年九五歳。
平成十三年 (二〇〇一)	熊本日豪協会が松尾家に「生家石碑」設置。
平成十四年 (二〇〇二)	鹿本町でオーストラリアフェア開催。ロバート・ホーク元オーストラリア首相が講演。
平成十五年 (二〇〇三)	国際交流事業「ホーク・レインボー・スカラシップ」で鹿本中学生2人が豪にホームステイ。以後、毎年夏休みに中学生を短期留学に招待。
平成十六年 (二〇〇四)	熊本日豪協会が久原の敬宇墓地に顕彰碑設置。
平成十七年 (二〇〇五)	熊本県立装飾古墳館が敬宇とまつ枝を題材にしたオリジナルアニメーション『平和への誓約』製作。
平成十八年 (二〇〇六)	行方不明だった最後の特殊潜航艇(伴艇)発見。
平成十九年 (二〇〇七)	八月、豪クツタバル海軍基地で日豪合同慰霊祭。十一月、熊本日豪協会が墓地への道標を設置。遺品の皮手袋が豪から返還され、靖国神社へ奉納。
平成二十年 (二〇〇八)	ホーク元首相、市内全ての中学校から豪への留学生が誕生したことを記念し、ジャガランダの苗木千本を山鹿市に寄贈。

近代の山鹿の偉人たち 018

軍神から日豪親善のかけはしに 松尾 敬宇

平成 23 年 3 月 発行

山鹿市教育委員会 教育部 文化課

〒861-0501 熊本県山鹿市山鹿 1026-2  
TEL 0968-43-1691

編集委員

古家 修(山鹿市文化財保護委員)  
宮崎 歩(山鹿市教育委員会文化課)

参考文献・ご協力頂いた方(敬称略)

木下鏝二編『写真集 軍神松尾中佐とその母』本渡諏訪神社社務所刊、昭和 54 年

田尻建次原作、野村一成著『松尾中佐とその母』日豪友好の架け橋、あきつ出版、平成 5 年  
『追憶 松本唯一先生』平成 8 年

土屋康夫『和解の海』特殊潜航艇、シドニー湾攻撃を超えて、ゆいぽおと刊、2009 年

松尾和子、松尾和年

菊池神社、熊本県立装飾古墳館